

科目名 Course Name		開講年次	開講学期	曜日・時限
ファイナンシャル・プランニング I Finanncial Planning I		1年	前期	別途、時間割参照
単位数	授業の形態	授業の性格		履修上の制限
2単位	講義	選択	(特になし)	特になし
当該科目の理解を促すために受講しておくことが望まれる科目				
法学、民法 I、II、不動産関係法、税法 I、II、金融と証券、社会保障 I、II				
同時に履修しておくことが望まれる科目				
法学、民法 I、不動産関係法、税法 I、金融と証券、社会保障 I				
担当者に関する情報				
氏名	研究室の場所	オフィスアワー		電話番号・メールアドレス
水谷 恒夫	非常勤講師室	出講日		授業中に指示します
授業の概要				
個人の家庭のライフプランをベースに、貯蓄や投資、保険、年金、不動産、税金、相続などを包括的にアドバイスする専門家＝ファイナンシャルプランナーの育成を目指す。専門家として必須の資格であるFP技能士3級検定試験の合格を目指す。				
授業の目標				
【1】前期、後期を通じて①ライフプランニングと資金計画 ②リスク管理と保険 ③金融資産運用設計 ④タックスプランニング ⑤不動産運用設計 ⑥相続・事業承継設計の6分野について説明、アドバイスができるようにする。【2】国家資格であるFP技能士3級検定試験の学科試験と実技試験の両方に合格できるようにする。【3】3級技能士試験検定試験は平成31年1月試験の学科試験、実技試験の両方に合格できるようにする。				
授業の方法				
【1】講義および発表形式によって、FP3級試験の過去の出題範囲を中心に授業を進める。また、過去問題集を使用し、実際の問題演習もカリキュラムに取り入れる。【2】15回の授業スケジュールは下記のとおりであるが、進行が早く進んだ場合は残りの授業を問題演習を中心とした授業に切り替える場合もある。				
学習の成果（学習成果）				
【1】試験の合格によって国家資格を取得し、就職、面接にアピールできる。【2】幅広いFPの知識を修得することによって、アドバイザーとしてのスキルを修得し、実務に役立てることができる。【3】身近な家計を考える際にも、FPの知識をベースに生活設計を行うことができる。				
授業のスケジュールと内容				
第1回目	授業のオリエンテーション：FPとは、FP試験の試験概要、授業の進め方、成績評価、テキストの説明。			
第2回目	ライフプランニングと資金計画（1）：基礎知識、手法、資金計画、ローンとカード			
第3回目	ライフプランニングと資金計画（2）：社会保険の概要（医療保険、介護保険、労働保険）			
第4回目	ライフプランニングと資金計画（3）：公的年金①制度の概要、老齢年金、繰上げ、繰下げ			
第5回目	ライフプランニングと資金計画（4）：公的年金②障害年金、遺族年金、手続き、企業年金			
第6回目	リスク管理と保険（1）：保険制度の概要、生命保険の基礎			

第7回目	リスク管理と保険（2）：保険約款、保険料払い込み、生命保険商品	
第8回目	リスク管理と保険（3）：個人年金保険、医療保障、生命保険と税金 損害保険	
第9回目	リスク管理と保険（4）：損害保険商品、損害保険と税金	
第10回目	金融資産運用設計（1）：マーケット環境の理解、貯蓄商品、債券の仕組み	
第11回目	金融資産運用設計（2）：債券の利回り計算とリスク、株式、投資信託	
第12回目	金融資産運用設計（3）：投資信託、外貨建て商品、金融派生商品	
第13回目	金融資産運用設計（4）：ポートフォリオ、税金、関連法規	
第14回目	3科目まとめ、問題演習1/2	
第15回目	3科目まとめ、問題演習2/2	
事前・事後学習	事前に次回の学習範囲を提示しますので、テキストを読んでおくこと。前回の内容を授業の最初に復習します。	
成績評価の方法と基準		
評価の領域	割合	評価の基準
授業参加態度	※0%	(注) 著しく授業参加態度が不適切な場合は、10点の範囲内で成績を減点する場合があります。減点事項としては、①遅刻、早退 ②授業中の居眠り、私語 ③その他受講態度として不適切とみなされるもの。である。
レポート		
調査報告書		
小テスト	50%	8回目をめどに、小テストを実施する。正答率に50%のウェイトを乗じ成績に反映する。
試験	50%	16回目の終講試験の正答率に50%のウェイトを乗じ、成績に反映する。
発表内容（態度含む）	※0%	授業中にテキストの内容、授業の内容について質問をする場合がある。
その他		
教科書と参考図書		
①FP技能士3級 最速合格ブック ②FP技能士3級 重要過去問スピード攻略 ①は第1回目の授業開始までに購入、②の購入時期については別途案内します。		
履修上の留意点・ルール		
テキスト・問題集・電卓（携帯やスマホに内蔵されているものは不可）・ノートを持参すること。重要な論点は板書するので、ノートに記入すること。		